

令和3年度 関町小学校 学校経営方針とリンクした学校評価表（自己評価） 名前( )

指標：(4…よく あてはまる 3…あてはまる 2…あまり あてはまらない 1…あてはまらない)

教員用

2021.12

学校のビジョン	1 子供の夢の実現のために、知・徳・体のバランスのとれた子供を育てます。 2 地域・家庭と連携した地域連携事業を通して、信頼される開かれた学校を創ります。 3 教職員の持ち味を生かし、チーム関小で活気ある教育活動をすすめます。 4 共生することに向けて、子供のニーズに合った特別支援教育をすすめます。
---------	---

学校教育目標	*考える子ども じょうぶな子ども ねばり強い子ども 思いやりのある子ども * :本年度の重点
--------	--

目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	ハートフル関小を合い言葉に、チーム関小で活気ある楽しい学校を創ります。 ①よく考えて自ら学ぶ子 ②じょうぶで元気な子 ③最後までねばり強くチャレンジする子 ④思いやりがあり、やさしい子 ①持ち味をいかにしながら学び続ける教師 ②子供の良さを見付け伸ばす教師 ③相談しやすく、迅速で的確な対応を行う教師
----------------------------	--

経営目標		具体的方策	取組(努力)指標		成果指標		昨年度数値
			↓7月記入	↓12月記入	↓7月記入	↓12月記入	
中期	短期		中間	年度末	中間	年度末	
			知・徳・体のバランスの取れた児童の育成	<p><b>知</b> ◇主体的・対話的で深い学びができる児童を育成する。</p> <p><b>徳</b> ◇思いやりの心や社会生活の基本的なルールを身に付けたやさしい子供を育てる。</p> <p><b>体</b> ◇心身ともに健康でたくましい体と心を育てる</p>	1 学習のめあて、評価の観点と方法、内容、場所・留意点等が記載された進捗を作成する。(PDCAサイクルの実践) 2 全教科でめあての焦点化、視覚化、共有化を行い、児童が分かった・できたと実感が伴う授業を展開する。 3 子供のよい所や行動を具体的に記録するとともに、ルーブリック評価・パフォーマンス評価により、指導と評価の一体化を図る。 4 習熟度別算数少数人数指導を充実させ、基礎学力を定着させると共に、学力向上を目指す。 5 朝学習、家庭学習(10分×学年+10分)の課題を課し、自主学習の態度を身に付けさせ、学習の定着・習熟を図る。(学年共通で取り組む) 6 チャレンジ読書(100冊・5000ページ読書へのチャレンジ)に取り組み、読書を習慣化し読書力を高める。 7 学校生活のベースとなる「関小スタンダード」を基に、子供・保護者とともに最低限のきまりを確認し合い、組織的な生活指導を行う。 8 道徳科では「評価」を意識し、「考え、議論する道徳」の実践を行う。 9 いじめ・自殺防止に関わる研修と、具体的な指導・挨拶運動週間等の取組を通して、基本的な生活習慣の確立を目指す。 10 教室に一人一人の子供の居場所を作り、安心して楽しく生活できる環境を作る。 11 「おはようございます。こんにちは。さようなら。」等の挨拶をすすんで行えるようにする。 12 教師が児童を「さん」「くん」付けで呼ぶなどの取組を通して、人権感覚を磨き、自分とともに他の人を大切にすることを育てる。 13 朝マラソン(月1回)・持久走大会、運動朝会(月1)、縄跳び等で体を動かす楽しさを実感し、体力を向上させていく。 14 SC、心のふれあい相談員、巡回心理士等との連携により教育相談機能を充実させ、ニーズに合ったきめ細かな対応をする。 15 安全でおいしい給食を提供すると共に、食育教育を推進する。		
開かれた学校創り	小中一貫教育を推進する ◇地域・家庭と連携した地域連携事業を活用して、信頼される開かれた学校を創る	16 9年間を見通した系統性のある取組の実践を通して、心の指導・学習指導・生活指導を一貫性のあるものを目指す。 17 職員研修や異校種・異学年交流を通して幼・保との連携教育を進めるとともに、学童クラブ・ねりっこクラブなどの連携を図る。(※コロナ禍制限あり) 18 関町地区の特色を生かした地域教材(農園との連携)を活かした教育課程を編成していく。 19 学校評議員会・保護者・児童のアンケート評価・意見を活かし、開かれた教育課程編成を実践していく。 20 遠足や体験学習など、保護者・地域の方が参加できる教育活動を実施し連携を図る。 21 学級・学年・専科・学校だより、HP(最低月1回更新)により、積極的に情報発信を行い、日常の教育活動を知らせる。					
生かした教育活動	教職員の持ち味を生かし、チーム関小で活気ある教育活動をすすめます	22 経営方針の達成に向けて、各学年・専科主任、分掌主任の持ち味を活かした学年・分掌運営ができていく。 23 若手教員対象のOJT研修、授業観察を活用したOJT研修により授業力を向上させる。 24 小教研・都や国の研究会等に参加し授業を公開したり、研究会等で学んだことを日常の授業実践に生かしたりしている。 25 ワークライフバランスを推進し、効率的に業務を遂行し月の残業時間を45時間以内にできた					
特別支援教育の推進	◇子ども・保護者のニーズに合った特別支援教育を推進する	26 特別支援コーディネーターを中心に、配慮が必要な児童の実態を情報共有し適切な支援体制を作り、SC、心の相談員、かたくり学級・ことばの教室の教員と連携してニーズに合った支援を行う。 27 定期的にかたくり教員・専門員による児童観察を行うと共に、特別支援教室入室等に向けた適切な資料を作成し児童のニーズに合った指導を受けられる環境・体制を作る。 28 担任は配慮を要する児童等の個別指導計画・個別的教育支援計画(学校生活支援シート)を保護者と適宜面談を行いながら作成し、ニーズに合った指導を行う。 29 学級に特別な支援が必要と感じる児童が在籍している場合は、特別支援教育担当教員に相談し、具体的な支援方法の助言を受けられる。 30 不登校傾向児童の実態把握(定期的な面談・電話連絡等)を行い、関係諸機関との継続的な連携とケース会議等での情報共有を図る。					